



2020年7月6日放送

「U=U (Undetectable= Untransmittable) について」

国立病院機構名古屋医療センターエイズ総合診療部長 横幕 能行

U=U について

これから、U=U というメッセージについてお話させていただきます。はじめに、このメッセージが出された経緯、次に、我が国の HIV とともに生きる人々の現状、最後に診療や研究での経験を踏まえ、このキャンペーンを契機に私たちが成すべきことを考えたいと思います。

U=U

正確には U equals U または U is equal to U と読みますが一般には U イコール U です。U=U とは、2017 年から当事者が提唱し、世界の科学者、医療者が賛同する形で広がったキャンペーンです。二つの U は、ヒト免疫不全ウイルス (Human immunodeficiency virus; HIV) が検出限界値未満を示す Undetectable、と HIV が他の人にうつらないことを示す Untransmittable、それぞれの頭文字です。

Undetectable の意味

はじめに、HIV が Undetectable 「検出限界値未満である」ことを理解しましょう。

HIV のウイルス量は測定可能

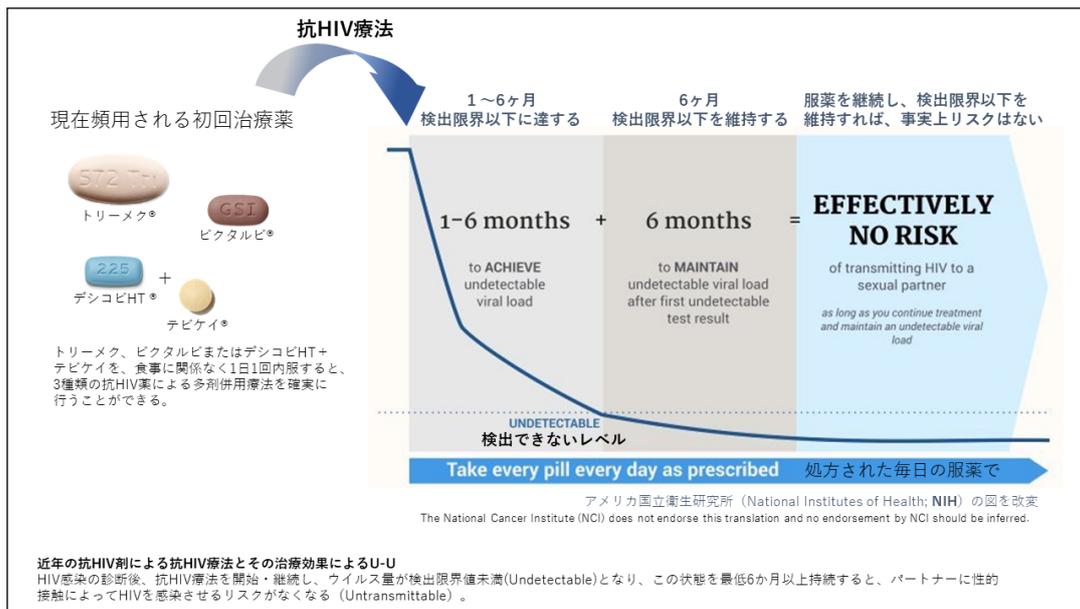
HIV は遺伝子として RNA をもつウイルスです。HIV に感染している人のウイルス量は、現在、主にリアルタイム PCR 法によって測定され、血漿 1mL あたりのコピー数で表します。未治療の場合、ウイルス量は 1 万～10 万コピーを示します。

抗 HIV 療法で HIV の複製は抑制可能

現在、1 日 1 回 1 錠の抗 HIV 剤を内服すれば、6 ヶ月以内にはウイルス量は検出限界値未満になります。

HIV が Undetectable とは？

「Undetectable」とは診断後、抗 HIV 療法を開始・継続し、6 ヶ月以上、ウイルス量が検出限界値未満であることを意味します。我が国の検出限界値は、多くの場合、20 コピーですが、国際的には多くの場合 200 コピーを指します。



Untransmittable の意味

次に、感染させない「Untransmittable」ことを理解しましょう。

HIV の感染経路

HIV に感染している人の体液で、他人に感染させる原因となるものは、主に精液、血液、膣分泌液及び母乳です。これらの体液から、主に性的接触、注射の回し打ち、母子感染及び医療現場等での曝露により感染するリスクがあります。

性的接触による HIV の感染リスク

我が国で最も頻度が高い感染経路は性的接触です。未治療でウイルス量が 1 万～10 万コピーを示す HIV に感染している男性と、HIV に感染していない女性が予防なしの性交をした場合、女性が HIV に感染する確率は 1/100 程度と考えられています。

母子感染とは

また、妊娠した女性が、HIV に感染していることを知らず、未治療のまま妊娠を継続、出産し、授乳すると、30%～40%の確率で赤ちゃんに HIV を感染させてしまうリスクがあります。

未治療でも必ず感染するという訳ではない

さて、2000 年に、ウガンダで行われ観察研究から、異性間性的接触による感染リスクの予測因子は、ウイルス量であることが報告されました。治療によりウイルス量を下げたらどうなるかという発想が生まれました。

治療によってウイルス量を抑えたらどうなるか？

2011 年、「HPTN052」という研究により、主に異性間性的接触において、HIV 感染判明後速やかに抗 HIV 療法を開始、継続できれば、パートナーへの感染リスクが劇的に抑制され、6 か月以上ウイルス量が検出限界値以下であれば、パートナーに HIV が感染することがなかったことが報告されました。続く「PARTNER1 および 2」という研究では、異

性間に加え同性間のカップルの性行為において、HIV に感染していても治療によってウイルス量を検出限界値未満に抑制していれば、性的接触によるパートナーへの HIV 感染がなかったことが示されました。

HIV が Untransmittable とは？

これらの結果から、「Untransmittable」とは、治療によりウイルス量が検出限界値未満となり、この状態を最低 6 か月以上持続できれば、パートナーに性的接触によって HIV を感染させるリスクはないということを意味します。

U=Uのキャンペーンの開始まで重ねられた研究

▶ 未治療でも必ず感染するという訳ではない

- ウガンダで行われた観察研究において、異性間性的接触による感染リスクの予測因子はウイルス量であった
Viral Load and Heterosexual Transmission of Human Immunodeficiency Virus Type 1. Rakai Project Study Group. N Engl J Med. 2000 Mar 30;342(13):921-9.

▶ 治療によってウイルス量を抑えたらどうなるか？

- HPTN 052
主に異性間性的接触において、HIV感染判明後速やかに抗HIV療法を開始、継続できれば、パートナーへの感染リスクが劇的に抑制され、6か月以上ウイルス量が検出限界値以下であれば、パートナーにHIVが感染することがなかった
Antiretroviral Therapy for the Prevention of HIV-1 Transmission. N Engl J Med. 2016 Sep 1;375(9):830-9.
- PARTNER 1とPARTNER 2
異性間に加え同性間のカップルの性行為において、HIVに感染していても治療によってウイルス量を検出限界値未満に抑制していれば、性的接触によるパートナーへのHIV感染がなかった
Sexual Activity Without Condoms and Risk of HIV Transmission in Serodifferent Couples When the HIV-Positive Partner Is Using Suppressive Antiretroviral Therapy. JAMA. 2016 Jul 12;316(2):171-81.
Risk of HIV transmission through condomless sex in serodifferent gay couples with the HIV-positive partner taking suppressive antiretroviral therapy (PARTNER): final results of a multicentre, prospective, observational study. Lancet. 2019 Jun 15;393(10189):2428-2438.

我が国の HIV とともに生きる人々

次に、我が国の HIV とともに生きる人々についてお話しします。

HIV とともに生きる人々 (People living with HIV ; PWH)

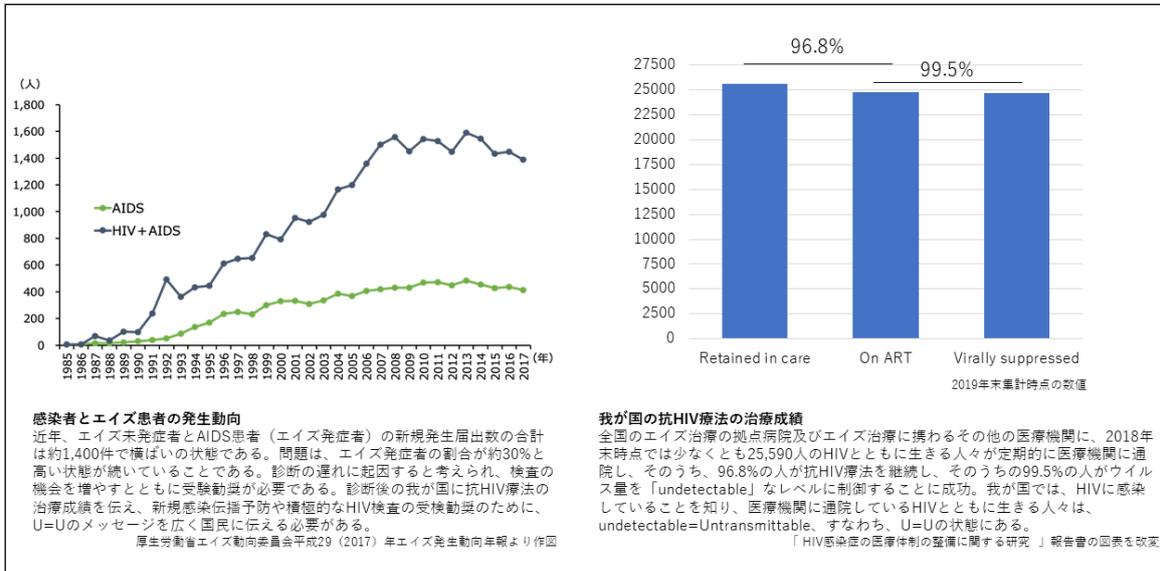
近年、治療の進歩により、すでに世界で HIV はともに生きていけるものと認識されており、近年、HIV に感染している人々を HIV とともに生きる人々と称します。とりわけ、エイズ発症前に、HIV 感染判明後、速やかに医療機関を受診し治療を開始、継続している人は、HIV とともに「普通に生活する」ことができます。

我が国のエイズ治療の現状

厚生労働省の研究班の調査によると、2018 年末時点で、全国には少なくとも 25,590 人の HIV とともに生きる人々が定期的に医療機関に通院し、そのうち、96.8%の人が抗 HIV 療法を継続し、そのうちの 99.5%の人がウイルス量を 200 コピー未満にすることに成功しています。すなわち、我が国では、社会福祉制度上の診断即治療開始が困難な中でも、医療機関に通院している HIV とともに生きる人々のほとんど全てが、U=U の状態にあるのです。

非感染者と同様の生活が可能

我が国の HIV とともに生きる人々は、医療者とともにあれば、非感染者と同様に日常生活を送ることができます。就学、就労に制限はありません。パートナーと交際し、子



供をもち、そして、育て上げることができます。どのような病気になっても必要な治療を受けることができます。また、人生の最期を、望む場所で、望むように迎えることができます。

PWH が直面している現実

しかし、現実とは違います。2019年に埼玉県立大学の若林チヒロ先生らによって拠点病院に通院中の1529人のHIVとともに生きる人々を対象に行われた「HIV陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果を交えながら現状をお話します。

必要な時であっても病名を開示できない

パートナーや親族に病名を告知できない HIV とともに生きる人々は少なくありません。かかりつけ以外の医療機関では、診療拒否が心配で病名を開示することに躊躇する人もいます。

必要な時であっても職場で病名を開示できない

「医者がさ、エイズで死なせない」って
 死にじゆう病気のイメージがあるけれど違います。日本では最新最高の治療を続けられるから検査することが特に大切なのです。

「治療すれば、誰かにうつさない」って
 病気のことを正しく理解して治療をすれば、誰かにHIVをうつしてしまうことはありません。他の性病も同じです。

「検査をって思うことから始まる」って
 検査を受けようと考え向き合うことは、健康な生活のための知識を得ること、あなたを支えてくれる人につながるの始まりです。

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「職場での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の研究」冊子「イメージを変えよう」より

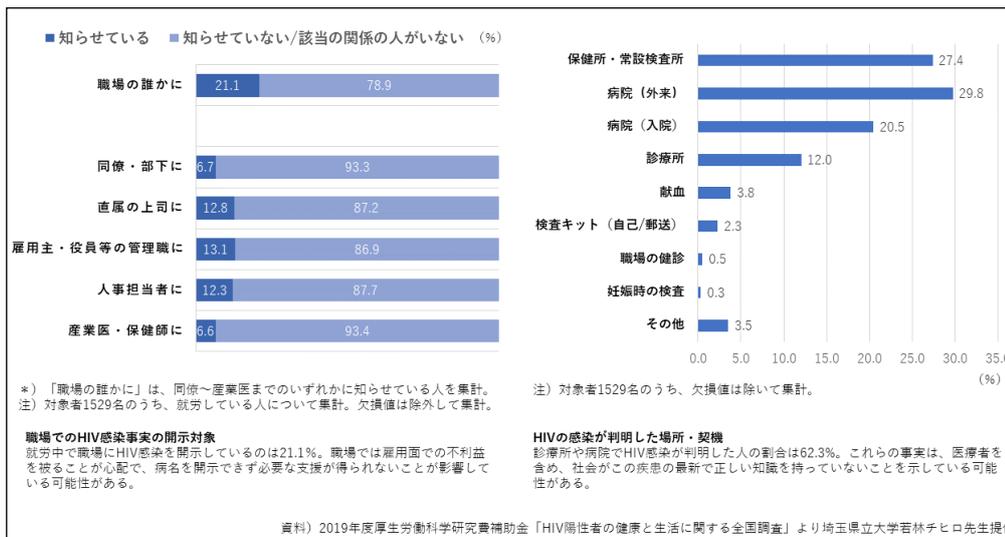
学べる、働ける、受け入れられる
 もし HIV に感染していても、とりわけ治療をしていなくても働けます。他の病気になっても大丈夫。移りも受け入れられます。

愛し合える、産める、育てられる
 もし HIV に感染していても、治療していれば誰にも感染させることなく子どもをもうけ、その成長をみとどけることができます。

性病のイメージはそのままじゃなくて
 誰もが日常生活で出会うかもしれない病気。お互いの健康を守るため、正しく理解し普通に接れる社会にあなから変えよう。

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「職場での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の研究」冊子「イメージを変えよう」より

職場では雇用面での不利益を被ることが心配で、病名を開示できず必要な支援が



得られないこともあるようです。就労中で職場に HIV 感染を開示している人は 21.1% でした。

HIV 検診の受検を阻害

こういった社会の雰囲気は、全ての人の HIV 検査の動機を著しく損ないます。エイズ動向委員会の報告によれば、新規発生届に占めるエイズ発症者の割合は約 30%のまま推移しています。また、調査によると、診療所や病院で HIV 感染が判明した人の割合は 62.3%でした。このように、HIV 検査を受検しないことによる診断の遅れが、我が国の解決すべき課題となっています。

U=U とは？

当事者、PWH にとって

当事者、HIV とともに生きる人々に対して、U=U にはどのようなメッセージが込められているのでしょうか。

普通に生活することができる範囲を最大化しよう

HIV は、人と人が最も密接する性的接触でも必ずしも感染しません。日常生活では、未治療であっても HIV を他人に感染させることはありません。U=U は普通に生活することができる範囲を最大化できるというメッセージです。

もちろん、他の病気と同様に、病名をわざわざ開示する必要はありません。U=U は、他の病気の人と同様に、自身の才能を社会で発揮させよう！と、HIV とともに生きる人々の社会参画を後押しするメッセージです。

さらに、社会の人々全てに HIV 検査の受検を後押しするメッセージでもあります。HIV 検査は、自分自身やパートナーのためのみならず、社会全体の健康状態の向上に役立ちます。

医療者の思い

一方、医療者はU=U というメッセージにどのような思いを抱いているのでしょうか。

互いに適切な健康管理を心がける

HIV とともに生きる人々に対して、定期的な HIV 検査の重要性を社会全体に発信してほしいと思っています。また、その他の性感染症に罹患しないように、ワクチン接種やコンドームを使用するなど、適切な感染予防を行い、定期的に検査を受けて欲しいと考える医療者は少なくありません。

適切な感染予防の方法を学ぶ

HIV に感染していない人に対しては、HIV に感染していない状態を維持するために、HIV 検査を受けること、パートナーを固定すること、パートナーと HIV について語り合える関係性を構築すること、コンドームの使用に加え、今後、曝露前予防投薬 PrEP (Pre-exposure prophylaxis) や、非職業従事者曝露後予防投薬 nPEP (non occupational PEP) の知識を持っておいてほしいと考えています。

職域健診 HIV・性感染症検査モデル事業

さて、厚生労働省では、平成 30 年度から HIV 健診の機会の拡大を目的として「職域健診 HIV・性感染症検査モデル事業」を行っています。

HIV 健診の機会を提供してみた

5 業種 9 企業で HIV 検査機会を提供すると、生涯の受検率の向上、当事者意識向上による受検促進、企業及び従業員の疾病知識の向上、そして健康情報のリテラシー向上といった効果が期待できることが明らかになりました。

検査の機会すら提供してはいけない？

さて、1995 年に当時の労働省から出された「職場におけるエイズ問題に関するガイドライン」は、当時の差別偏見が極めて強い状況から、労働者の不利益につながるのみ、として、「労働者に対して HIV 検査を行わないこと」、「採用選考を行うにあたって、HIV 検査を行わないこと」と決めました。エイズ治療の現場の一医師としては、このガイドラインが企業や健診の場で「エイズは特殊な疾病であるから関わらないようにする」根拠に使われていること残念に思います。

現代のエイズ治療の現状に即していない

社会ではまだまだほど遠い捉え方かもしれませんが、医療の現場では HIV が「個々の健康の問題」となりつつあります。このガイドラインの文面は、「HIV 検査の結果を雇用や採用の評価や判断の根拠に不正に用いてはならない」とすべきではないかと考えています。

U=U のキャンペーンを企業にも

企業を足場として啓発と検査機会を広げていくことは、HIV とともに生きる人々のその後改善と社会参画の後押し、そして、新規の HIV 感染伝播抑制に効果的で、U=U のキャ

ンペーンの主旨に合致します。企業の皆様には、健康経営の一つの柱としても取り組んでいただきたいと思います。

社員の健康づくりのため、検査機会を提供しましょう

——少しの勇気で他人事から自分事になる。

当務の進歩により、HIVとともに生かされるようになりました。感染を早く知り、治療を開始すれば、今までどおり働けます。職場での検査機会の提供は、社員の健康意識の向上につながります。



参加すると

- 社員に無料で検査機会を提供することができます。
- 検査や検査結果に関する相談はBRTAがすべて対応します。
- 社員の健康づくりへの支援に積極的な会社と社会に認知されます。

参加企業に求められる3つのポリシー

- 雇用保障**
検査を受けるも、受けない、結果にかかわらず雇用を保障する。
- プライバシー管理**
検査結果は本人のみに提供される。
- 健康支援**
医療機関への紹介や相談への対応を支援する。

会社ごとに、できる範囲で、できることから、無料でスタートできます

対策もやり方もカスタマイズできる研修

対面でもオンラインでも、研修時間、研修内容など研修の目的や対象者など、研修のニーズに応じて、さまざまな方法と内容をご用意しています。企業規模や従業員数などにも合わせて、研修内容や研修方法をカスタマイズいたします。

プライバシー保護を徹底した個別検査

匿名・匿名化の仕組みを徹底して、各従業員の検査結果が個人に伝わりません。企業側は検査結果を安心して確認いただけます。企業側は安心して検査結果を確認いただけます。検査結果が個人に伝わりません。企業側は検査結果を安心して確認いただけます。

カスタマイズ事例

- 企業規模に合わせた研修内容の提供。研修時間や研修内容など、研修のニーズに応じて、さまざまな方法と内容をご用意しています。
- 匿名・匿名化の仕組みを徹底して、各従業員の検査結果が個人に伝わりません。企業側は検査結果を安心して確認いただけます。
- 企業側は安心して検査結果を確認いただけます。検査結果が個人に伝わりません。企業側は検査結果を安心して確認いただけます。

専門家へつなぐアフターケアの充実

検査結果がわかり、不安や疑問を抱かれたら、個人や職場に合わせた支援や相談を迅速に行います。また、検査結果がわかり、不安や疑問を抱かれたら、個人や職場に合わせた支援や相談を迅速に行います。

職域健診HIV・性感染症検査モデル事業（左）

平成30年度からHIV検査の機会の拡大を目的として行われている。厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の研究」班では、「職場におけるエイズ問題に関するガイドライン」を遵守し、郵送検査キットを使用し、職域でのHIV検査機会提供を試みている。

企業での啓発イベント（下）

企業での検査機会提供にあたっては、HIV感染症/AIDSに関する最新で正確な情報提供を行なっている。がん等とは異なり触れられてこなかった疾病であることから、企業においてはHIV感染症/AIDSは未だ「死の病」のままであったが、情報提供によりイメージが大きく変わりHIV検査の受検の意義が理解できたという感想を得ている。産業医をはじめとし、医療者は積極的に企業等での啓発に参画すべきである。



最後に～U=Uのキャンペーンに期待すること～

U=Uのキャンペーンが契機となり、HIVとともに生きる人々、当事者、医療者そして社会が、HIVに関して正しい知識を持ち、HIV感染症・エイズを数ある病気の一つとして認識し、国民一人一人が健康の問題と考え、HIV感染によって人々の命や才能発揮の機会が失われない社会になることを、心から願っています。

番組ホームページは <http://medical.radionikkei.jp/kansenshotoday/> です。感染症に関するコンテンツを数多くそろえております。